

事業評価調書

◎基本情報

年度		令和4年	会計コード		10	一般		事業コード		23947	
事業名		食の輸出拡大支援費									
評価担当課		所属名		経)産業振興部 産業振興課							
		課長名		小室 匡	担当者名		高井 航平	電話番号		011-211-2392	
施策名	主	札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業が、時代の潮流を									
	副										
アクションプラン		● 対象 ○ 対象外				戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外				
事業の性質		○ 経常経費 ● 臨時的経費									
		○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理									
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他									
	目的	短期	輸出拡大に取り組む市内中小企業に対し、国内外のバイヤーとの商談機会を提供し、輸出額の増加を図る。〔目標〕2015年度から2022年度までの成約・売上合計額(累計)34億円)また、コロナ禍で需要のある国内での販売額の増加も図る。								
		長期	企業の海外展開レベルに応じた支援メニューの提供・支援体制により、輸出額及び海外展開に自立して取り組める企業数の増加を目指す。								
	取組内容	市内食関連事業者の国内外への販路拡大を目的に、官民連携による商談機会の創出や、海外進出に取り組む企業へのニーズに応じた支援を実施する。 ①道内経済団体等と連携した輸出拡大支援事業(展示商談会出展支援、商談会開催等) ②北海道と連携した輸出拡大支援事業(オンライン商取引支援、海外EC市場調査等) ③道内経済団体等と連携した国内販路拡大支援事業(国内最大の国内向け食品展示商談会・スーパーマーケットトレードショーへの出展支援) ④コーディネーターによる各種相談対応や企業間コーディネート、国内ネットワークを活用した国内販路拡大支援									
	実施結果	①展示商談会の出展支援やオンライン商談会の開催等により、延べ222社を支援した。 ②北海道と連携し、道産品の人気が高いシンガポール、香港、台湾等のバイヤーとのオンライン商談会や海外展示商談会の出展支援等により、延べ78社を支援した。 ③123社に対し、スーパーマーケットトレードショーへの出展支援を実施した。 ④国内展示商談会の出展支援や商談会開催、食に関するBtoC催事に参画するなど、延べ409社を支援した。これらの取組により約9億円の成約見込があり、着実な成果が見られる。									
事業実施における工夫点		海外渡航制限を踏まえ、札幌での輸出商談会や現地とのオンライン商談会を実施したほか、国内の巣ごもり需要を受けて国内販路の拡大を強化するなど、コロナ禍でも商機を逃さぬよう事業を行った。									
対象者		市内食関連企業					開始	平成17年度	終了	令和4年度	
関連法令・条例・要綱等		無し									
他都市の状況		福島県:農産物等海外販路開拓支援事業 海外販路拡大や輸出環境整備に取り組む団体への補助 鹿児島市:輸出チャレンジ支援事業(鹿児島市) 海外の展示商談会等に出展する経費や海外市場調査等に要する経費の補助									

◎事業費

(単位:千円)

		令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費		69,162	73,000	69,658	65,000
うち特定財源		6,102	6,000	11,789	0
人工		2.5	3.2	3.2	0.0
人件費		18,000	23,040	23,040	0
計(事業費＋人件費)		87,162	96,040	92,698	65,000
事業費 の内訳	令和4年度決算	69, 658千円 ・札幌食と観光国際実行委員会に対する負担金 23, 000千円 ・北海道・札幌市海外拠点連携協議会に対する負担金 11, 788千円 ・北海道ブランド販路開拓・拡大実行委員会への負担金 600千円 ・コーディネーター人件費・事務費、国内販路拡大 32, 895千円 ・旅費等 1, 375千円			
	令和5年度予算	65, 000千円 ・札幌食と観光国際実行委員会に対する負担金 48, 000千円 ・北海道・札幌市海外拠点連携協議会に対する負担金 12, 000千円 ・北海道ブランド販路開拓・拡大実行委員会への負担金 1, 000千円 ・北海道貿易物産振興会への負担金 2, 000千円 ・旅費等 2, 000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	物産展や商談会に参加した市内企業数(のべ企業数)							
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定					
		1448社	1000社	832社	—					
活動指標2		指標名								
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定					
成果指標1		指標名	市内企業の食品輸出額(アンケート調査による)							
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標					
		—	—	—	—					
成果指標2		指標名	成約・売上合計額(累計)							
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標					
		36億円	40億円	45億円	—					
項目	判定	理由								
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	コロナ禍による海外渡航制限の中でも商機を逃さぬよう、札幌での輸出商談会や現地とのオンライン商談会を実施したほか、巣ごもり需要を受けて国内販路の拡大等を積極的に行った結果、活動指標こそ目標に届かなかったものの、成果指標では目標を上回る実績を残すことができた。								
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	商談会や展示会、物産展への参加経費の1/2~2/3程度を補助しているが、企業が自立して海外展開を進められるよう、一定の企業負担を求めながら実施しており、事業規模は適切と認識している。								
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	コロナ禍で主流となったオンラインによる事業実施や、国内販路拡大支援強化について、関係機関と連携しながら、円滑に事業を実施することができた。								
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	コロナ禍でも一定の参加企業数があり、企業ニーズは依然として高いと考えている。								
市民参加の実施	☒ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外		市民参加結果への対応		☐ 回答 ☐ 反映					
今後の改善点	人口減少に伴う国内需要の減少を背景に、輸出の取組を強化する国内の食関連企業が増加し、競争が激化している。競争を勝ち抜くためには、世界の各地域・各市場が求めている商品を的確に把握することに加え、市内食関連企業の輸出に対するニーズを汲み取りながら、施策を実施する必要がある。									
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし									
今年度取り組んだ見直し内容	引き続き、国内・アジアにおける販路拡大の支援を継続しながら、所得が高く、近年日本食レストランが増加し、道産食品の取引が伸びる可能性のある欧米への販路開拓を実施する。			見直し効果額 (前年度)	0	千円				
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし									
評価の理由	コロナ禍でも事業内容や実施方法を工夫した結果、成果指標を達成することができ、効果的に事業を推進することができたため。									
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☒ 改善 ☐ 現状維持 ☐ 休止・廃止								
		事業に参加した企業からの反応や実績を踏まえ実施した事業を検証するとともに、事業を実施する過程で市場が求めている商品や企業が輸出に関して抱えているボトルネックを把握し、効果的な販路拡大の施策に繋げていく。								
	予算	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ その他			企業ニーズ等を踏まえ、現状維持とする。					
				見直し効果額	0	千円				